



The Whisper from Amherst

エミリーのささやき

エミリーは生後まもなく受けた洗礼でエミリー・エリザベスという名前をもらいましたが、生涯、自分の意志で教会に属することはありませんでした。

エミリーは「天国」を「わたしには届かないもの！」と定義しています。彼女はキリスト教で説く「天国」を信じていたわけではなく、彼女なりの「天国」を思い描いていました。それはとても手に入りやすく、遠くで光り輝くものであったようです。あこがれのようなものであるけれども、手に入れてはいけない「木に実っているりんご」のように魔性を秘めたものにも例えています。



“Heaven”—is what I cannot reach!

“Heaven”— is what I cannot reach!
The Apple on the Tree —
Provided it do hopeless — hang —
That — “Heaven” is — to Me!

「天国」とは わたしには届かないもの！
木に実っているりんご
もし手の届かないところにあるなら
それがわたしにとって「天国」！

The Color, on the Cruising Cloud —
The interdicted Land —
Behind the Hill — the House behind —
There — Paradise — is found!

移り気な雲の色
禁じられた土地
山のむこう 家の裏
そこに楽園がある！

Her teasing Purples — Afternoons —
The credulous — decoy —
Enamored — of the Conjuror —
That spurned us — Yesterday!

彼女の戯れに人を誘う深紅は 夕方になると
信じやすい人間を 誘きよせる
魔術師にまたところを奪われる
昨日拒絶されたばかりというのに！

